

第3章 ヒヤリ箇所

1 交通事故の発生状況

1) 全国における近年の交通事故発生状況

(1) 地域別の事故特性

近年における国内の交通事故の発生状況を地域別（全人口に占める* DID 地区の人口割合を用いて、全国を大都市圏、中規模都市圏、地方部に分類）、幹線道路（一般国道、都道府県道、政令市主要市道）、生活道路（政令市主要市道以外の市町村道）別に比較した表から、地域別の特徴を見ると、大都市圏では、生活道路における歩行中・自転車運転中の事故の割合が他地域と比べて高く、地方部では、幹線道路における自動車運転中の事故の割合が他地域と比べて高くなっている。

* DID 地区：国勢調査において、人口密度が 4,000 人/km²以上の基本単位区（平成 2 年以前は調査区）が互いに隣接して人口が 5,000 人以上となる地区

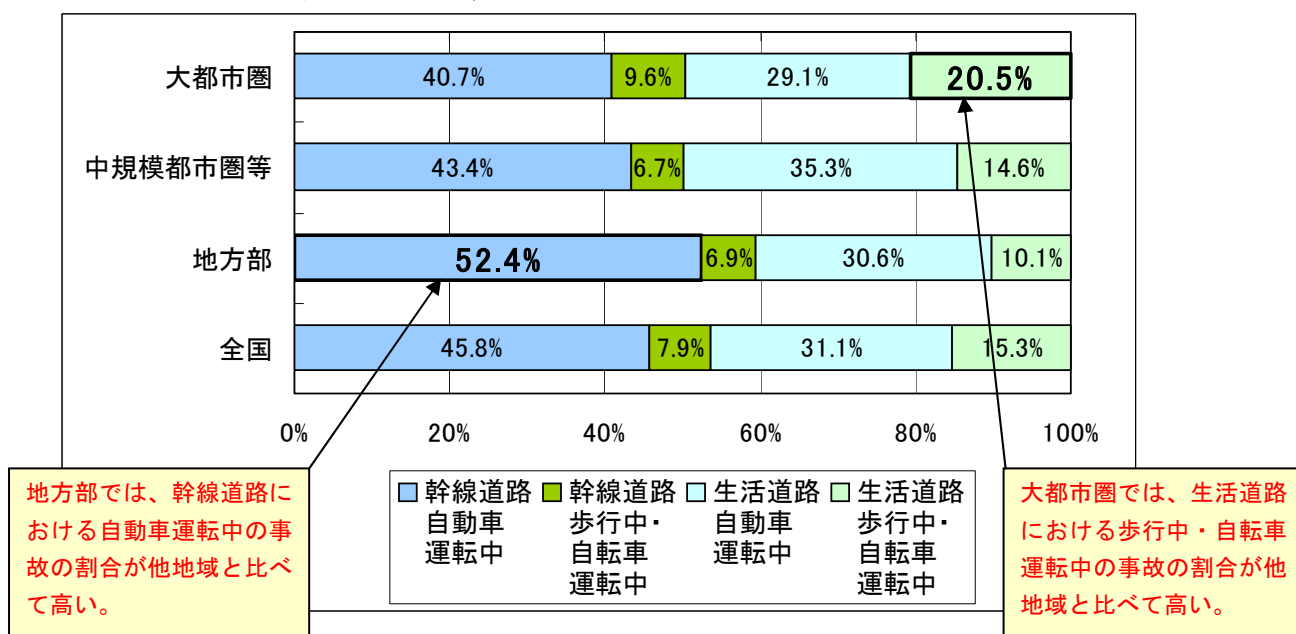


図 3-1 地域別原因別死傷者数

表 3-1 人口百万人当たりの死傷者数

(資料：平成 18 年度 国土技術政策総合研究所講演会講演集、交通事故削減に向けた取り組み)

	幹線道路		生活道路	
	自動車乗車中	歩行中・自転車乗車中	自動車乗車中	歩行中・自転車乗車中
大都市圏 (DID 人口割合 70%以上)	3,757.8	887.2	2,684.2	1,895.5
中規模都市圏等 (DID 人口割合 50~70%)	4,063.6	623.5	3,304.0	1,361.8
地方部 (DID 人口割合 50%未満)	5,087.1	664.5	2,968.5	979.8
全国平均	4,314.5	746.2	2,927.8	1,439.5

●大都市圏: DID人口割合70%以上の都道府県(東京、大阪、神奈川、京都、埼玉、愛知、兵庫)

●中規模都市圏等: DID人口割合50%以上70%未満(北海道、千葉、福岡、沖縄、奈良、広島、静岡、宮城)

●地方部: DID人口割合50%未満(その他の県)

また、歩行中・自転車運転中の死傷者数に注目すると、大都市圏においては、生活道路が 68.1%となっており、地方部の割合(59.6%)に比べて高くなっていることが分かる。

以上のことから、大都市圏においては、生活道路における歩行者や自転車の事故対策をより重視すべきであると考えられる。

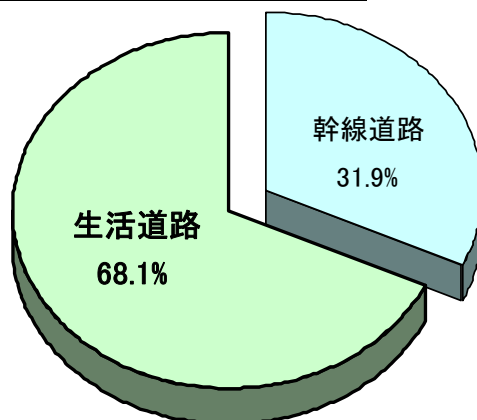


図 3-2 大都市圏における歩行中・自転車運転中の死傷事故の発生箇所

表 3-2 歩行中・自転車運転中の事故の発生箇所

(資料：平成 18 年度 国土技術政策総合研究所講演会講演集、交通事故削減に向けた取り組み)

	幹線道路	生活道路	合計
大都市圏	887.2	1,895.5	2,782.7
	31.9%	68.1%	100.0%
中規模都市圏	623.5	1,361.8	1,985.3
	31.4%	68.6%	100.0%
地方部	664.5	979.8	1,644.3
	40.4%	59.6%	100.0%

※上段：人口百万人当たりの事故件数、下段：割合

(2) 死亡事故の発生特性

歩行者死亡事故の発生箇所と自宅からの距離との関係を示した図 3-3 を見ると、死亡事故の実に 56.2%が自宅から 500m 以内で発生していることが分かる。このことから、生活道路における歩行者の交通事故対策は緊急の課題であるといえる。

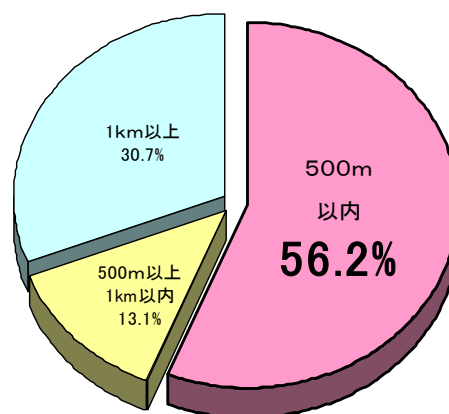


図 3-3 自宅からの距離別死亡事故発生件数 (国土交通省資料)

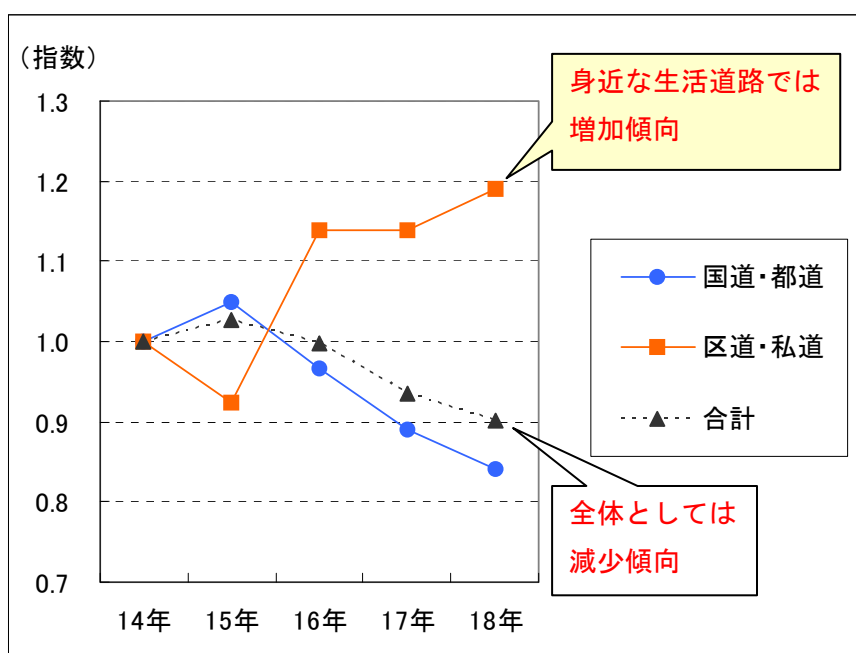
2) 区内における交通事故の特性

警察の事故データを基に、区内における交通事故の特性を整理した。

(1) 事故件数の推移

平成 14 年から平成 18 年までの 5 か年を対象として、区内の交通事故の発生件数は、減少傾向を示している。

また、交通事故の発生箇所別に見ると、国道・都道における交通事故の割合は、区内全体の傾向と同様に減少傾向にあるが、区道・私道における事故の割合は、増加傾向を示している。このことから、「身近な生活道路」での事故の割合が高くなっていることが分かる。



※図 3-4 は、平成 14 年の交通事故件数を 1 として、平成 15 年以降の交通事故件数を指数で表示したもの

図 3-4 区内における交通事故件数の推移

表 3-3 交通事故件数 (区四署集計)

	14年	15年	16年	17年	18年
国道・都道	1,056	1,108	1,021	941	889
区道・私道	222	205	253	253	264
合計	1,278	1,313	1,274	1,194	1,153

(2) 歩行者事故の発生状況

区内の歩行者事故の件数は、平成14年以降約170件から約190件で推移しており、ほぼ横ばいの傾向を示している。

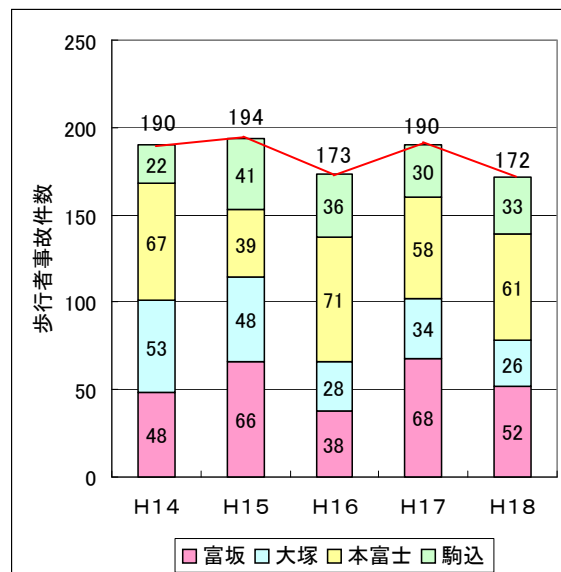


図 3-5 歩行者事故件数の推移

(3) 歩行者事故の年齢層別の傾向

平成16年から平成18年までの3か年における歩行者の事故件数を年齢層別に見ると、子どもと高齢者の事故が、全体の約3割を占めている。

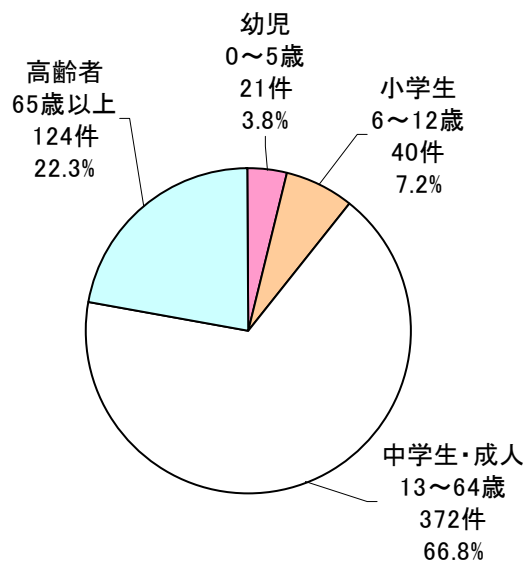


図 3-6 年齢層別歩行者事故の割合 (H16~18)

表 3-4 年齢層別歩行者事故件数 (区四署集計)

	H16~18 歩行者事故件数合計
幼児(0~5歳)	21
小学生(6~12歳)	40
中学生・成人(13~64歳)	372
高齢者(65歳以上)	124

また、平成 16 年から平成 18 年までの 3 か年における歩行者の事故件数を区内居住者の年齢層別の人口で割った事故率と比較すると、小学生と高齢者の割合が平均値を上回っている。

このことから、交通弱者である小学生や高齢者の安全性の確保が課題であるといえる。

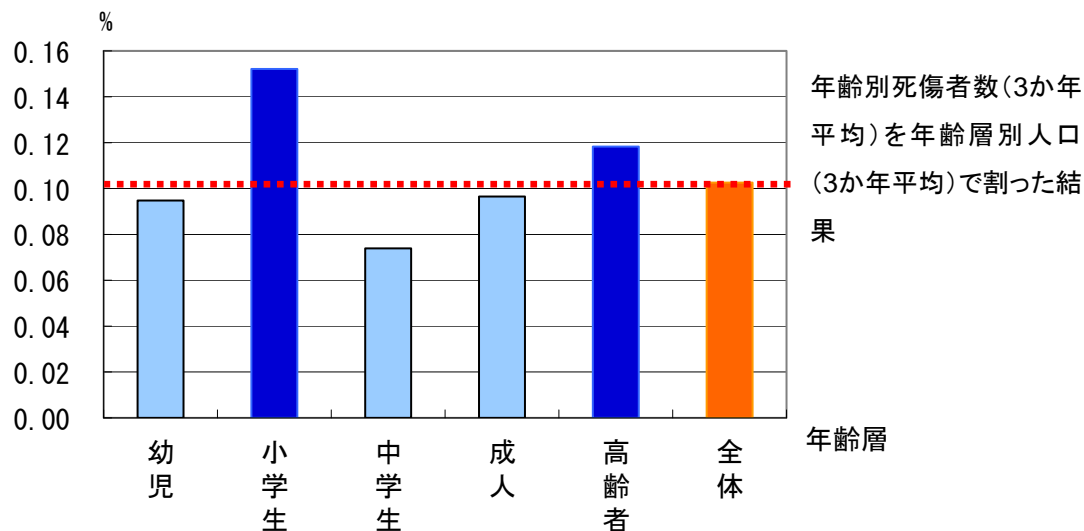


図 3-7 年齢層別の歩行者事故率 (区四署集計)

表 3-5 年齢層別の歩行者事故率 (区四署集計)

	年齢層別死傷者数	年齢層別人口	事故率
幼児	7.0	7,397.3	0.09
小学生	13.3	8,757.7	0.15
中学生	2.7	3,611.7	0.07
成人	121.3	125,927.0	0.10
高齢者	41.3	34,973.3	0.12
平均	185.7	180,667.0	0.10

(4) 歩行者事故の原因別の傾向

平成 16 年から平成 18 年までの 3 か年における歩行者事故を原因別に見ると、歩行者に過失がない事故が全体の約 7 割を占めている。

このことから、道路環境の安全性確保が重要であるといえる。

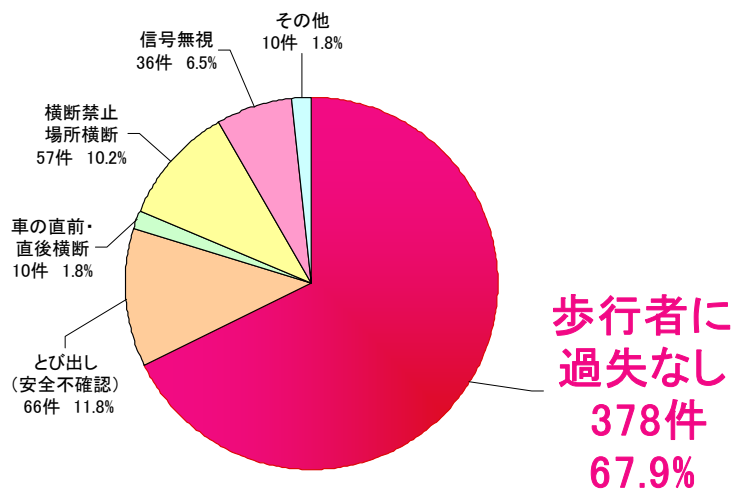


図 3-8 歩行者事故の原因別死傷者割合 (区四署集計)

3) 交通事故発生箇所

警察の事故データを基に、平成 16 年から平成 18 年までの 3 か年を対象に、区内における交通事故の発生箇所を整理した。

各地区の交通事故の発生状況については、表 3-6 のとおりである。

また、交通事故の発生箇所の分布については、p37 に示す。

表 3-6 各地区の交通事故の発生状況

地区	軽傷事故件数	重傷事故件数	死亡事故件数	計
A	73	1	0	74
B	46	1	0	47
C	81	1	0	82
D	48	0	0	48
E	129	1	0	130
F	32	1	0	33
G	27	0	0	27
H	15	1	0	16
I	13	1	0	14
J	27	0	0	27
K	58	2	0	60
L	158	0	0	158
M	31	1	0	32
N	22	0	0	22
O	71	1	0	72
P	60	2	1	63
Q	46	0	0	46
R	20	0	0	20
S	122	1	0	123
T	61	1	0	62
U	30	0	0	30
V	24	0	0	24
合計	1,194	15	1	1,210

事故発生箇所



凡例

- 対象路線
- 死亡事故
- 重傷事故
- 軽傷事故
- 通学路

2 ヒヤリ箇所（交通安全上注意を要する箇所）の把握

区内におけるヒヤリ箇所を抽出するため、学校関係者に対するアンケート調査を実施するとともに、区職員及び警察関係者に対するヒアリング調査を実施した。以下に調査の概要と調査結果を示す。

1) ヒヤリ調査の概要

調査は、学校関係者に対して、各学校周辺の地図に要注意な交差点、その他の要注意箇所、自動車や自転車の通過交通が多い路線の位置を記入してもらう形式で実施した。

調査票のサンプルを p40 に、調査結果を p41 に示す。

2) ヒアリング調査の概要

調査は、区職員及び警察関係者に対して、区内における要注意な箇所等について、ヒアリング形式で確認した。なお、調査結果を p42 に示す。

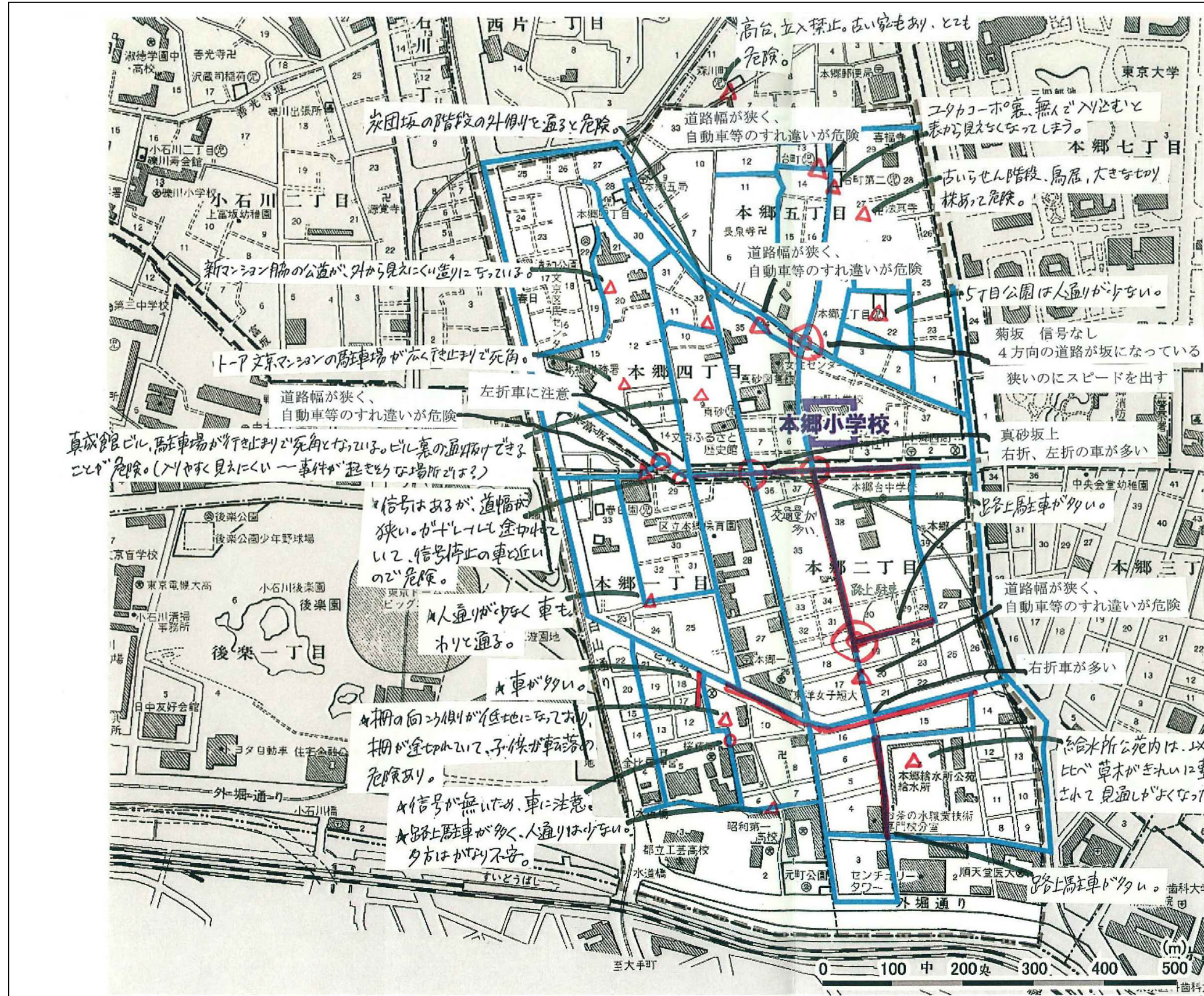
3) ヒヤリ箇所の整理

各地区のヒヤリ箇所の概要を以下に整理した。

表 3-7 各地区のヒヤリ箇所

地区	要注意な 交差点	その他の ヒヤリ箇所	通過交通が 多い路線	その他の 要注意な路線	計
A	9	2	1	3	15
B	3	1	2	1	7
C	8	11	8	2	29
D	0	0	3	0	3
E	4	0	10	2	16
F	3	1	0	0	4
G	9	6	3	0	18
H	1	0	1	0	2
I	2	0	1	0	3
J	6	10	7	4	27
K	2	4	0	1	7
L	4	5	2	2	13
M	14	3	2	1	20
N	9	5	1	1	16
O	28	12	25	0	65
P	4	0	10	4	18
Q	9	2	4	2	17
R	1	3	2	0	6
S	10	7	16	7	39
T	2	2	1	2	7
U	3	1	7	1	12
V	8	3	4	1	16
合計	139	78	110	34	361

本郷小学校 通学路等のヒヤリ箇所調査票



記入方法

- ・通学路及び学校周辺道路におけるヒヤリ箇所を下記の凡例にしたがって、赤色のペンで記入してください。
- ・ヒヤリ箇所の状況をマークの近くに具体的に記入してください。

凡例

- ① 要注意な交差点
 - ・見通しが悪い等、要注意な交差点を○、特に要注意な交差点を◎で囲んでください。
- ② その他の要注意な箇所
 - ・道路幅員が狭く、自動車等とのすれ違いが困難等の要注意な箇所を△で囲んでください。
- ③ 自動車の通過交通が多く要注意な区間
 - ・道路を実線でなぞってください。
- ④ 自転車の通過交通が多く要注意な区間
 - ・道路を点線でなぞってください。

ヒヤリ調査結果



凡例

- 要注意な交差点
- △ その他のヒヤリ箇所
- 通過交通（自動車）
- 通過交通（自転車）
- 要注意路線
- - - 通学路

ヒアリング調査結果

